

接続詞 that の導入『これ、だれのことば？』授業案
(I think / know / hope that ～ で気持ちを言う)

I think that ～. は、教科書の本文で出会った日から生徒の口にのります。止まるのは that のあとです。I think that delicious. と、思ったことを形容詞だけで置く生徒、I know that he like natto. と、that のあとの文で3単現の s を落とす生徒、I think that soccer. で終わる生徒が、同じクラスにいます。3つとも、that のあとに「文が1つ」入ることがまだつかめていない誤りです。この授業案は、学校のだれかが言いそうな3つのヒントで「だれのことばか」を当てるクイズで I think / know / hope that ～ を18回聞かせ、that のあとにはいつも主語と動詞のある文が来ることに気づかせます。

この教材で解決できる悩み

- I think that ～ を練習しても、作文で I think that delicious. や I think that soccer. が出る
- that のあとの文になると、3単現の s や be動詞が落ちる (I know that he like ～.)
- think・know・hope の使い分けがあいまいで、「～だと思ふ」以外の気持ちを言えない

教材の概要

項目	内容
対象	中学2年 (NEW CROWN 2 Lesson 2／Here We Go! 2 Unit 2／ONE WORLD 2 Lesson 1 ほか)
文法項目	接続詞 that (I think / know / hope that ～) ・that の省略
形式	授業案A4・3ページ
所要時間	50分×1コマ
準備物	印刷のみ (投影版を使う場合はプロジェクタ) ・カード (1人1枚)

授業の流れ (50分)

導入：これ、だれのことば？クイズ (15分)

学校のだれかが言いそうなことを、その人の声で3つ聞かせ、生徒はだれのことばかを当てます。ヒントは1枚ずつ増え、6問で18文。どの文も I think that / I know that / I hope that のどれかで始まり、that のあとに文が1つ続きます。

1. I think that breakfast is very important.
2. I know that some of you don't like green peppers.
3. I hope that you will finish our curry on Wednesday.

答えは給食の調理員さん。1枚目は保健室の先生・家の人・担任のだれでもありえて、2枚目で食べ物の人に絞れ、3枚目の「水曜のカレー」で確定する—この勾配がクイズの生命線なので、ヒントの順番は入れかえないでください。以降は保健室の先生、部活の顧問、ALT、校長先生 (I know that my speeches are a little long.) と進み、最後は先生本人です。

正解のたびに、What do you think about ～? の問いを1つだけ生徒に向けます。What do you think about today's lunch? – I think it's delicious.／What do you think about natto? – I think natto is great.

のように、自分の考えを I think ～. で返させます。板書は2列にして、左にヒントの that のあと、右に生徒の I think ～. を書きためていきます (I think delicious. は先生が I think it's delicious. と言い直すだけ)。

気づき: that のあとは「文1つ」(8分)

板書の左の列を見渡して「that のあとには、いつも何が来ている？」と問います。breakfast is / some of you don't like / you will finish—どれも主語と動詞のある文です。think・know・hope は「思う・知っている・願う」で気持ちがちがっても、that のあとの形は同じ、が生徒の言葉で出るまで待ちます。

次に右の列を指さします。生徒の答えは、ほとんどが I think it's delicious. のように that がありません。話すときは that をよく省くこと、書くときも省いてよいことを確かめます。最後に、クイズの途中で聞こえた I think that delicious. を板書し、「足りないものは？」と聞いて it is を足させます。that のあとの文も、ふつうの文と同じルール(主語・動詞・3単現)で書く、を1行でまとめます。

展開: わたしはだれでしょう？(15分)

1人1枚のカードに、身近なだれか(先生・部活の先輩・家の人・ペットでもよい)になりきって、その人の声で I think that ～. / I know that ～. / I hope that ～. の3文を書きます。4人班で1人ずつ1文ずつ読み上げ、ほかの3人は1文ごとに Is it ～? と当てます。1文目で当たったら3点、2文目なら2点、3文目なら1点。書く側は、すぐには当たらない1文目から書くことになります。

当てる側は、that のあとの文を最後まで聞かないと手がかりがつかめません。だれのことばかは書いた本人しか知らない—当てる理由が本当にあるので、that のあとを聞く回数が自然に増えます。クラスの友だちを題材にするときは、本人が聞いてうれしいことだけ、と最初に約束します。机間では、that のあとに主語と動詞があるか、3単現の s が落ちていないかを聞き取ります。

出口: 自分の気持ちを2文で(8分)

近いうちの行事(文化祭・期末テスト・部活の大会)について、I think (that) ～. と I hope (that) ～. の2文を書きます。机間で見るのは3つです—that のあとの主語と動詞(I think that fun.)、that のあとの3単現(I know that my brother practice ～.)、hope のあとの will (I hope that we will win.)。書けた2文はカードごと回収し、次の時間の最初に2～3枚読み上げます。

まとめ(4分)

2文を2～3人に読ませ、that のあとに文が1つ入っているかを確かめます。次の時間は教科書の本文から that を探し、that のあとの文の主語と動詞に線を引く、と予告して終わります。

6問目(先生本人)の3文は、先生の実話に差し替えてください。1枚目はだれにでも言えること、3枚目はその先生しか言わないことを、I hope that you will ～. の形で。

定着・受験への接続

板書の2列(ヒントの that のあと/生徒の I think ～.)は、そのまま定期テストの「自分の考えを書く」問題の形です。中2の接続詞 that のまちがいは、that のあとの文に集まります(主語と動詞の抜け・3単現の落ち)。今日のカードの2文を、この2つの点検に使ってください。

接続詞をまとめて練習するなら接続詞の定着ドリル、10分で確かめるなら接続詞の10分小テスト、意見と理由を言う活用は理由つきおすすめカード&おすすめ図鑑、評価は意見と理由の30秒トークへ続きます。if の導入は『もしも占いの館』授業案、when は『あなたが幸せを感じる時は?』自己表現スリップです。when・if・because・that を見分ける練習は接続詞の使い分けワークシート (Premium) にあります。

投影版パワーポイント (Premium)

この授業案には、導入15分の「これ、だれのことば?」クイズをそのまま投影できるパワーポイント (全27枚) が付属します。スライドを進めるたびにヒントが1枚ずつ増え、もう1回進めると答えの人と What do you think about ~? の問いかけがめくれます。答えスライドのポイント欄には板書の右の列に書く I think ~. の例を、発表者ノートにはクイズの勾配を崩さない読み方と、6問目を先生の実話に差し替えるときの作り方を書いています。ダウンロードはPremiumのファイルです。

